

東京都知事選挙告示についての談話

2016年7月14日

連合東京 杉浦賢次

本日7月14日、舛添知事の辞任による東京都知事選挙が告示された。

現時点で東京都が抱える課題は、労働政策、待機児童問題、災害対策、そして4年後に迫った2020年のオリンピック・パラリンピック対策など多岐にわたり、停滞がゆるされる状況ではない。しかし、3代続けて都知事が任期途中で退任する事態となり、都政を早期に正常に機能させていくことが求められている。

連合東京は、「今都知事選において各政党は、国政における党利・党略に基づく対決軸を都政に持ち込むのではなく、東京都民のために、その枠を超えてオール東京の発想で対応すべきである。」との認識で対応を図ってきた。

しかし、告示直前までの参院選における激しい戦いの影響もあって、こうした私たちの思いは残念ながら通じず、自民党は分裂、民進党は候補者擁立に日々迷走を繰り返しながら、国政と同様に野党共闘という全面対決の構図となった。

このような状況の中で、連合東京執行部として

- ① 東京都が置かれている現状の中で、連合東京が今都知事選で特定の候補者を支援することは、国政のような与野党の対決姿勢を助長することとなり、妥当ではないと判断する。
- ② 連合東京が都知事選候補者の支援を判断する最も重要な視点は、連合東京の政策を東京都政に反映できる候補者かどうかであるが、今回は、そのことを比較検証し組織的理解を得るための時間がない。

上記のことから連合東京は、7月13日に開催した第9回執行委員会で、東京都知事選挙においては「自主投票」を提起し、確認された。

なお、7月22日告示で行われる東京都議会議員補欠選挙については、第9回執行委員会で確認された、新宿区・連合東京組織内「猪爪まさみ」候補、渋谷区・「浜田ひろき」候補、大田区・「もり愛」候補(民進党公認候補)の必勝に向けて取り組むこととし、各構成組織・地域組織に対し、「投票へ行こう!」との棄権防止対策の徹底を要請する。

以 上